

(様式第16号)

学 校 評 価 実 施 状 況 調

改正学校教育法及び学校教育法施行規則が平成19年12月26日に施行されたことにより、各学校においては、教職員による自己評価を行いその結果を公表することが義務づけられ、併せて保護者その他学校関係者による評価を行いその結果を公表するよう努めるものとされました。

つきましては、各私立学校における学校評価の実施状況等について以下に記入願います。

学校教育法施行規則（抄）

第六十六条 小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実情に応じ、適切な項目を設定し行うものとする。

第六十七条 小学校は、前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者（当該小学校の職員を除く。）による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

[これらの規定は、幼稚園、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校に準用されています。]

		学 校 名	常総学院高等学校
平成30年度の状況			
1 学校評価の実施状況	※該当項目にチェック	(未実施の理由)	
① 教職員による学校の自己評価を実施	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施		
② 保護者等学校関係者による学校評価を実施	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施		
③ 第三者による学校評価を実施	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施		
2 評価結果の公表状況			
① 保護者、学校評議員等関係者にのみ公表	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施	学校評議委員会にて公表	
② 広く一般に公表	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施	ホームページにて公表	
令和元年度の計画			
1 学校評価の実施予定		(未実施の理由)	
① 教職員による学校の自己評価を実施	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施		
② 保護者等学校関係者による学校評価を実施	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施		
③ 第三者による学校評価を実施	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施		
2 評価結果の公表予定			
① 保護者、学校評議員等関係者にのみ公表	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施		
② 広く一般に公表	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施		

※ 平成30年度の公表資料を添付すること。

評価者：学校関係者による評価者：常総学院高等学校同窓会会長 学校法人常総学院評議委員
飯田 晃久

第三者による評価者：西根地区 有山 武

平成30年度 常総学院高等学校学校関係者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	Ⓐ 十分達成している	クラス毎の皆勤・精勤率の向上。英単語をはじめとして古語試験等全員が合格しており、大学現役進学率も84%と安定。特に、東京大学法学現役合格、筑波大学医専をはじめ医学部医学科には昨年を上回る15名が合格しており、単年度の重点目標は達成できているととらえる。
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
2. 学校の自己評価表の具体的目標 及び 具体的方策の達成状況について	A 十分達成している	一部達成が十分でない部門が見られるが、概ね成果が見られる。達成が不十分な部門に関しては、次年度以降引き続き努力してもらいたい。
	Ⓑ どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
3. 次年度への主な課題の把握について	Ⓐ 十分把握している	十分認識していると思われるので、今年度以上に課題が達成できるよう期待したい。
	B どちらかといえば把握している	
	C どちらかといえば把握していない	
	D 把握していない	
4. 改善方策の策定状況について	Ⓐ 策定できている	現状を掌握しながら改善策を講じていることがわかる。今後とも、各項目において一層の改善策を講じてほしい。
	B どちらかといえば策定できている	
	C どちらかといえば策定できていない	
	D 策定できていない	

※「学校関係者評価」は、学校の自己評価結果をふまえて行うこととします。学校関係者評価における評価者とは、各学校の生徒の保護者や、各学校の教職員を除いた学校と直接の関係のある者及び大学教員等の学校と直接の関係を有しない有識者とし、学校評議員も評価者に含まれます。

平成30年度 常総学院高等学校第三者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	Ⓐ 十分達成している	遅刻・早退者もほとんど見かけず、挨拶、服装もしっかりしており、きめ細やかな指導が行われている様子が伺える。大学現役進学率も84%。部活動面においても、吹奏楽部の全国大会出場、県民文化センターにおける定期演奏会、水泳部・男女バドミントン部のインターハイ出場など部活動との両立した進学校として、地元に着定しており更なる発展を期待したい。
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
2. 学校の自己評価表の具体的目標 及び 具体的方策の達成状況について	Ⓐ 十分達成している	一部達成が十分でない部門が見られるが、概ね成果が見られ、学校の活性化に向けての努力が伺える。達成が不十分な部門に関しては、次年度以降引き続き努力してもらいたい。
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
3. 次年度への主な課題の把握について	Ⓐ 十分把握している	十分認識していると思われるので、今年度以上に課題が達成できるよう期待したい。
	B どちらかといえば把握している	
	C どちらかといえば把握していない	
	D 把握していない	
4. 改善方策の策定状況について	Ⓐ 策定できている	現状を把握しながら改善策を講じていることがわかる。今後とも、各項目において一層の改善策を講じてほしい。
	B どちらかといえば策定できている	
	C どちらかといえば策定できていない	
	D 策定できていない	

目指す学校像		『知育・徳育・体育の円満なる人物の育成』との建学の精神に則り、「自主・誠実・創造」を校訓として掲げ、「文武両道」を基本方針とし、将来は日本及び国際社会に貢献できる人物を育て、真の意味でのエリートを輩出することを目標とする。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題・改善方策
国語	<p>〈現代文分野〉基礎的な読解力の定着を図るとともに、豊かな語彙・知識を習得し、日本語を通じ、情報読解力・情報組織力の涵養を主体的に図る。</p> <p>〈古典分野〉日本の伝統的文化に関する知識、感性の基礎を形成する古典的教養を身につけ、古典を読解し、自らの生き方を見つめるきっかけにする姿勢を身につける。</p>	生徒の習熟度に適した教材を精選するとともに、指導技術の向上と工夫を図る。	A	<p>習熟度確認の方法を工夫し、学習内容の定着との密接化を図る。</p> <p>他教科、学年、併設中学校との連携を強化し、学習内容定着の効率化を図る。</p> <p>1年次から学年とも連携し、読書習慣の確立・発展を継続的に図っていく。</p>
		基礎学力定着のために、確認テストを頻繁に実施し、評価する。特に基本的古文単語二百語に関しては、全員への定着を学年的取り組みとして行う。	A	
		日本語に対する主体的態度を育むために、適切な助言により効果的な学習活動を促すとともに、段階的に主体化を図る。	B	
		宿題・課題等を課し、自宅学習の充実を図る。	A	
		理解度・定着度に応じて、放課後や長期休業中を利用して補習を実施する。	A	
		3年の1学期までに教科書を終了し、以降は大学受験頻出問題などの演習・解説を実施し応用力を養成する。	A	
		図書を紹介し、読書に親しませる。	B	
グループワークや課題解決型学習を行い、主体的、協働的に課題を解決する力を養成する。	A			
地歴・公民	<p>〈地歴〉資料集等を用い、地理的条件等と関連づけて、日本や世界の歴史を総合的に考察させ、歴史的思考力を養う。</p> <p>〈公民〉現代における政治・経済・国際関係などについて客観的に理解させ、それらに関する諸問題を主体的に考察させて、知的好奇心にあふれた良識ある人材の育成を図る。</p>	教材の精選と授業内容の充実を図る。	A	<p>習熟度確認の方法について、より良いものをめざし工夫する。</p> <p>教科内で科目間の連携を図り、限られた時間数を効率よく充実したものにしていく。</p> <p>科目内で連携し、生徒の知的好奇心の喚起、物事の本質的理解を図る。</p> <p>新学力観に対応するため、グループワークやプロジェクターを使った視聴覚授業などを導入中であり、さらに充実させる。</p>
		単なる知識の教授だけではなく、その背景等についても理解させるように工夫する。	B	
		2年次に基礎歴史用語のテストを実施(日本史B・世界史B)し、合格するまで何度も繰り返し学習させる。	A	
		3年の10月までに教科書を終了し、以降は大学受験頻出問題などの演習・解説を実施し応用力を養成する。	B	
		授業の単元ごとに小テスト等を行い理解度および定着度を確認する。	A	
		理解度・定着度に応じて、放課後や長期休業中を利用して補習を実施する。	A	
		公民科目間(倫理・政経)の連携を図り、理解が深まるように工夫する。	A	
新学力観にもとづき、グループワークやプロジェクターを使った視聴覚授業を導入する。	B			
数学	<p>綿密な授業計画のもとに基礎学力の定着と応用力の向上、家庭学習の充実を図る。</p>	教材の精選と授業内容の充実を図る。	A	<p>教材の更なる精選と授業内容の充実を図る。シラバスを整理し、生徒の現状と大学受験に合わせた授業計画を練る。基本的事項のより一層の定着と応用力の伸長を図る。また、学力の3要素を育てるためにAL型の授業を取り入れたり、ICT機器の活用を図っていく。</p>
		授業の単元ごとに小テスト等を行い理解度および定着度を確認する。	B	
		宿題・課題等を課し、自宅学習の充実を図る。	A	
		基礎事項の理解を徹底させるとともに、問題演習を十分に行う。	A	
		理解度・定着度に応じて、放課後や長期休業中を利用して補習を実施する。	B	
		3年の10月までに教科書を終了し、以降は大学受験頻出問題などの演習・解説を実施し応用力を養成する。	A	
		AL型の授業を取り入れ、主体的、協働的に課題を解決する力を養成する。	C	
理科	<p>自然や科学に対する関心や探究心を高め、論理的に考える力を育成する。自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する基礎学力を充実させる。</p>	単なる知識だけの教授だけではなく、その背景にある原理・原則も理解させるように工夫する。	A	<p>実験・観察を更に充実させ、生徒の興味・探究心を喚起する教材を研究する。</p>
		教材・教具の工夫や実験・観察を実施し、授業内容の理解に助けるよう工夫する。	B	
		授業内容の小テスト等を行い理解度および定着度を確認する。	A	
		基礎事項の理解を徹底させるとともに、問題演習を十分に行う。	A	
		理解度・定着度に応じて、放課後や長期休業中を利用して補習を実施する。	A	
		3年の10月までに教科書を終了し、以降は大学受験頻出問題などの演習・解説を実施し応用力を養成する。	A	

保健体育	体力を鍛え、集団での自己の役割を認識させ、保健の基礎知識を習得させる。体育の授業において、怪我等の事故防止に努める。	体育の個人技量の向上と集団行動において他人を思いやる心を育成する。	A	A	生涯にわたって積極的にからだを動かそうとする資質とその能力を育む。保健学習では、将来の健康なライフスタイルを確立させるため、青年期の正しい生活習慣の維持が重要であることを理解させる。代表的な生活習慣病である癌に対し、原因・予防・治療について学習指導する。
		保健の授業では視聴覚教材を積極的に取り入れ、興味関心を喚起する。	A		
		ケガ、事故防止のために準備運動や安全管理に努め、常に気を配る。	A		
		スポーツへの多様なかわり方を理解させ、身近な経験とリンクさせた考え方を身につける。	B		
芸術	生徒個人の創造性を引き出すとともに芸術の楽しさ、こころ豊かに生きることの大切さを伝える。	授業において可能な限り、個別指導を取り入れる。	A	A	実技の授業による感受性の育成を図る。音、絵画、書という芸術分野に触れさせ興味をいだかせる。
		実習内容の精選を図り、教材と指導方法の工夫と改善を図る。	A		
英語	2020年度からの「大学入学共通テスト」に向けて、外部検定試験の情報を収集し対策を行い、4技能の向上に努める。基本英単語の定着を図ると共に、基礎的な文法・語法力の定着を図る。読解、表現力の向上を図り、将来、国際社会に通用できる英語に繋がられる様、基礎学力の充実に努める。	基礎英単語のテストを実施し、合格するまで何度も繰り返し学習させる。	A	A	4技能を図ることのできる資格・検定試験について検討し、英検を選択、これまで以上に力を入れて英検合格者を増やすため、英語科全体体制で、2次試験対策を行う。さらにGTECにも力を入れていく。英作文やリスニングの授業を中心とした、発信型英語運用能力の開発。さらなる難関大学へ対応可能な高度な読解能力の開発。基礎英単語テストのさらなる発展と、学力下位層の底上げ。
		4技能を測定する資格・検定試験対策に力を入れる。	A		
		予習・復習等の確認をとおり、自宅学習の定着を図る。	A		
		英語に親しめるサイドリーダーを活用し、読解力の基礎の育成を図る。	B		
		まとまりのある英作文が書ける力を養えるような授業を展開する。	A		
		理解度・定着度に応じて、放課後や長期休業中を利用して特別講義を実施する。	A		
		大学入試に対応できる長文読解力や英作文等の指導を充実する。	A		
3年の1学期までに教科書を終了し、以降は大学受験頻出問題などの演習・解説を実施し応用力を養成する。	A				
家庭	「自己実現を志向して生活を主体的に創造する力」を身につけることを目指す。	実習内容の精選を図り、教材と指導方法の工夫と改善を図る。	B	A	青年期の自分を客観的にとらえ、自立に向かって主体的に実践できる能力を育成する。民法改正に向けて必要な知識をみにつけさせる。消費者問題の現状と複雑化・多様化している支払い方法について理解させる。
		調理等の実習では衛生面に配慮し、清潔な服装で授業にのぞませる。	A		
		男女が相互に協力して家庭を築くことの重要性について認識させる。	A		
		日本の高齢化が急速に進んでいる現状とその背景および問題を考える力を養成する。	A		
情報	①情報社会の中において必要なコミュニケーション能力を身に付ける。 ②プレゼンテーション能力の向上を図る。 ③個人情報の取り扱いなどの情報モラルへの知識・理解を深める。	アナログとデジタルを理解し、さまざまなものがデジタル化されていることを踏まえ、社会の動きを深	A	A	情報化社会と言われている中で、情報メディアを使いこなせる以前に、根底にあるモラルやマナーの取得を目指し、社会に参画する意義を理解させる。また、自己を理解し、他人とのコミュニケーションをスムーズに行える能力を身に付ける。プレゼンテーション能力を身につけさせる。
		ネット社会における、情報モラルを十分に習得し、ネット社会の現状やネット犯罪の防止を図る。	A		
		グループごとにテーマに沿って話し合いをさせ、コミュニケーション能力を養う	A		
		情報を伝達する際に妨げとなるものを理解し、円滑なコミュニケーションがとれる手法を身に付ける。	A		
		プレゼンテーション実施と共に聞き手側にもまわり、相互の理解を深める。	A		

総務課	学校行事調整と諸調査、学校要覧、公文書管理等を行う。	年間行事計画立案と円滑な実施が可能となるように毎月各分掌と連絡調整を図る。	A	A	学校運営をより円滑にするために毎年、改善点を明確にして次年度に反映させている。	
		茨城県私学振興室関連の諸調査及び回答文書作成を正確かつ迅速に行う。	A			
		学校要覧作成のとりまとめ業務全般を行う。	A			
	表簿類の手配や印刷室の管理、事務用品の管理等を行う。	出席簿、学級日誌、教務手帳、指導要録等の発注手配を教務と連携して行う。	A			A
		印刷室環境美化に努め、印刷用紙の在庫管理や発注を行う。	A			
		筆記用具やファイル、その他事務用品全般の管理及び発注を行う。	A			
	入学式、卒業式等の式典や父母の会総会等の総括を行う。	入学式、進級式等の式典関係の運営をとりまとめる。	A			A
		父母の会総会の役員及び来賓者への連絡や対応を渉外課と協力してとりまとめる。	A			
		全体行事全般について各分掌間との連携を図り円滑に運営できるよう努める。	A			
渉外課	父母の会総会や父母の会各支部活動の活性化。	父母の会総会や学級懇談会への保護者の出席増加を呼びかける。	A	A	父母の会・後援会とも、会長を中心に、それぞれの行事のさらなる充実を目指し、生徒の健全なる育成を支援する。対外活動という役割を認識して、外部団体との連携を深める。同窓会については会長を中心に自主的な活動があり今後も緊密な連携をとっていく。	
		父母の会各支部総会の出席者増加のための資料作成や講演内容の検討に努める。	A			
		父母の会研修旅行への積極的な参加を呼びかける。	A			
	父母の会役員会や後援会会議等の補助	父母の会正副会長会議や後援会等の事前準備及び会議運営の補助に努める。	A			A
		全国私立中高保連や父母の会関連諸会議への協力や出張補助に努める。	A			
		父母の会及び教職員の懇親会などの準備や手配に協力する。	A			
	父母の会、同窓会広報活動、募金活動など	父母の会新聞や父母の会各支部だよりの取材や編集、発行業務を支援する。	A			A
		同窓会会議や同窓会総会、会報誌の取材や編集等の業務を支援する。	A			
	施設環境課	教育施設全般の管理にあたる。	机、椅子、教卓、教壇、黒板、掲示板などの教室備品の管理と整理を行う。			A
校内外の清掃活動の徹底と学校環境の整備・美化に努める。			A			
清掃用具の管理や不足分の調達、その他必要な物品等の購入を検討する。			A			
省エネ、防災活動の徹底		年間2回の避難訓練の計画を立案し、実行する。	A	A		
		各種警報装置や防火管理設備の点検を定期的に行い万一に備える。	A			
		照明器具の省エネに努めると同時にエアコンフィルターの清掃を定期的に行う。	A			
清掃状況確認及び学校見学会、入試関係の諸準備手配		各教室やトイレ、特別教室などの常日頃から整理整頓を徹底させる。	A	A		
		各教室の机や椅子、その他不具合のある備品の交換や修理を計画的に行う。	A			
		学校見学会、本校入試会場準備の際の清掃の指示及び最終確認作業。	A			
生徒指導課	規律ある落ち着いた学校の雰囲気作り	学校生活に不要な物品の持込禁止の徹底を図る。	A	A	個人の人格を尊重し個性の伸長と社会の一員としての資質や態度を高めることを促す。望ましい人間関係の育成を目指し、健康的な生活の習慣を身につけさせる。	
		授業開始のベルが鳴る前に着席する「ベル着」や授業中私語禁止の指導徹底を図る。	A			
		全員皆勤を目標に毎日学校に登校し、勉強に取り組む姿勢を指導徹底する。	A			
	父母の会との連携を図り、問題解決にあたる。	父母の会と連携し、各支部単位で祭補導や列車指導、バス指導などを展開する。	A			A
		生徒指導委員会、各学年検討委員会等で学校との連携を図る。	B			
		父母の会各支部総会での生徒指導関連の情報交換会や相談会を実施する。	A			
	心の教育の充実	生徒会と共同の「あいさつ運動」を展開する。	A			A
		社会のルールを守ることや他人への思いやりの大切さを徹底指導する。	A			
		消火活動や事故防止活動、その他いわゆる『善行』に対する意識の高揚を促す。	B			

特別活動課	生徒会活動の活性化を図る。	生徒会が企画運営する学校行事に関する支援や工夫をアドバイスする。	A	A	生徒会役員や各実行委員のより一層の自主性を養えるような指導をする。
		生徒会予算編成・執行に関する業務を正確・迅速に行えるよう支援する。	A		
		生徒会誌「常総」の編集を支援することで伝統とプライドを持たせる。	A		
	部活動の活性化を図る。	各部活動の予算を調整し、円滑な活動ができるように予算を配分する。	A	A	
		各部活動実績を毎月全校集会で発表したり、C棟に掲示するなど広報に努める。	A		
		野球応援等に積極的に参加するように呼びかけることで母校愛を高める。	A		
新入生歓迎会、常友祭、芸術鑑賞会等の諸行事を統括する。	新入生歓迎会で生徒会や部活動を紹介し、本校への帰属意識を高める。	A	A		
	常友祭準備から後片付けまで一連の運営を支援し創意工夫の力を育てる。	A			
	外部団体による芸術鑑賞会の企画立案を計画的に取り組む。	A			
保健相談課	保健衛生管理に努める。	定期的トイレや流しの石鹸の有無を確認し、衛生管理に努める。	A	A	自らの心身の健康について主体的に考え、生涯にわたって心身共に健康な生活を実践できる生徒を育成する。 自他の生命の大切さを理解し、思いやりをもった行動が出来る生徒を育成する。
		休み時間ごとの換気や手洗い、うがい等を励行し、風邪の予防に注意させる。	B		
		施設環境課と連携し、教室や廊下の清掃を徹底し清潔な環境を保持する。	A		
	生徒の健康管理	定期検診やその他体育的行事の際に保健調査を行い、健康に留意させる。	A	A	
		生徒及び保護者に「保健だより」を定期的に発行し、注意を促す。	B		
		掲示物を利用し、さまざまな病気や注意すべき事柄に興味・関心をもち、自己管理能力を高められる。	A		
	教育相談の実施	体の病気や精神的な悩みについて相談しやすい環境を整える。	A	A	
		心身のバランスが不安定な生徒を早期に発見し、学年主任・担任等と連携して、的確な対応に努める。	A		
		専門医へ相談することを促したり、適切なアドバイスを行うように努める。	A		
教務課	授業時間の確保に努める。	年休出張等は事前に変更し、突発休は当日授業補填を100%確実に行う。	A	A	大学入試を重視した、カリキュラムのさらなる改善。定期試験問題の充実化。教員の勤務条件を更に公平化し、学習活動の活性化に努める。基礎学力の向上に向けての全体的な取り組みを引き続き実施していく。
		毎年、学校行事の見直しを図り、出来る限り授業時間の確保に努める。	A		
		生徒及び教員にとって、能率的で公平な時間割編成を行うよう努力する。	B		
	適切な教育課程の編成とシラバスの完成に努める。	内進及び外進の文系・理系のそれぞれの学力に応じた教育課程を編成する。	A	A	
		中高6カ年(中高一貫コース)と高校3カ年(外進コース)の各シラバスを編成する。	B		
		生徒の学力に応じた教材とその進捗及び進捗計画を毎年見直すことに努める。	A		
	教科による研修の充実を図り、授業力の向上に努める。	教科会議を中心に各教科内で授業内容の綿密な打合せを実施する。	B	A	
		定期試験や模試結果より、授業内容の改善について主任会で検討する。	A		
		教科ごとに研修を行い、授業方法の改善をこころがける機会を与える。	A		
学習指導課	放課後の特講授業の年間計画の作成。	各学年のカリキュラムに応じ、放課後特講授業を計画する際の調整役を行う。	A	A	実力試験・模擬試験の成績を通じ過年度比較を行い、教科毎に何を取り組んでいけばよいのかを提言できるようなシステムを構築していく。 校内ICTの活用とAL型授業の普及に努め、よりよい学習体制を構築する。 実力試験の有効活用と電子化について具体的に対策していく。
		年間を通して特講の実施状況や回数、内容等の記録を統括する。	A		
		定期試験や模擬試験の結果を分析し、特講内容について随時各担当者と相談する。	B		
	夏期休業期間中の特講授業や補習授業の計画・立案。	夏期休業期間中の前期、後期の特講授業の各学年間の調整を行う。	A	A	
		夏休み中の各学年行事や野球応援などに臨機応変に対応できる体制を整える。	B		
	新入生のための指導計画を立案する。	新入生のための事前指導計画や教材内容の選定など調整を行う。	B	A	
入校確認日の際には、クラス分け試験の準備や教員役割分担などを作成する。		A			

図書館課	大学受験のための参考資料の充実を図る。	大学受験の過去問題集や出題傾向・対策に関する参考資料の充実を図る。	A	A	自学自習の場としての機能は十分に果たしている。生徒・教員の要望に対し蔵書の充実に向けているが、更なる工夫に努めていきたい。
		一般教養の習得や入試対策として、新聞の自由閲覧や保管管理業務を行う。	A		
		小論対策や志望動機理由の参考になるような図書の実施を図る。	A		
	読書、鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	新刊書の中から、生徒に是非読ませたい本を教員が選択し、購入に努める。	A	A	
		生徒から購入希望本のリクエストを募集し、可能な限り購入に努める。	B		
		文系・理系のジャンルで生徒が選択しやすいように本の配置を工夫する。	A		
朝及び夜間図書館を利用した学習習慣の確立を目指す。	朝7:30より、さらに放課後から夜9:45まで図書館を開放し自学自習の場とする。	A	A		
	図書館内では私語を一切禁じ、黙々と集中して勉強する態度を育成する。	A			
	学習上の疑問について、夜間図書担当者は応じることに努める。	A			
進路指導課	高い志を持つ一人一人に対応した進路指導の充実を図る。	将来について考えさせる進路講演会や学年行事等への積極的参加を支援する。	A	A	資料配布・整備、講演会・行事等を通じて、進路に関する情報は十分に発信しているが、一人一人の生徒が早めに自己の進路に対する自覚を持ち、模擬試験などにも主体的に取り組むよう促す工夫を、学年と連携しながら考える必要がある。
		将来を真剣に考えるための資料や図書類を充実させ自由に閲覧できるようにする。	A		
		「進路だより」を定期的に配布し、教員及び生徒間で共通理解を図る。	A		
	授業を中心に主体的な学習習慣を確立させ、学力向上を図る。	授業が大切であることを認識させるために、的確な進路情報を発信する。	A	A	
		学年と連携し、生徒の家庭学習実態を把握し、担任の個別指導に役立てる。	A		
		学年と全国模試の年間実施時期及び回数等を調整し、学力向上を支援する。	B		
進路情報の生徒・保護者への提供に努める。	生徒が志望校を考える資料として『大学合格体験記』を三者面談時に配布する。	A	A		
	父母の会総会、学年別進路講演会、父母の会支部活動等において情報を提供する。	A			
情報処理課	個人情報保護法遵守と校内の情報処理の推進役を果たす。	校内LAN、インターネット環境の保守管理に努める。	A	A	個人情報をはじめとする情報の管理およびPC利用環境の向上に努める。特に、個人情報の保護について、教職員の意識の高揚を図る。ICTの機器導入・利用方法の研修などを行う。
		学校関連のデータや個人情報の機密保持に細心の注意を払う。	A		
		個人情報保護の法的知識やデータの扱い方等について周知徹底を図る。	B		
	教職員の意見に耳を傾け、使いやすいOA環境を構築する。	定期試験成績処理システムの運用を円滑に行う。	A	A	
		調査書・生徒指導要録の電子化等のシステムの運用を図る。	A		
		模試の過去問をLAN上に公開し大学入試対策の利用に役立てる。	B		
入試業務及び在校生の個人情報管理	入学試験受験者名簿の作成や事務手続きに必要な個人情報を取りまとめる。	A	A		
	新入生及び在校生の住所や連絡先などの個人情報を一括して管理する。	A			
	進路指導課や同窓会と連携し大学進学先や現住所の把握に努める。	B			
入試広報課	全員四年制大学への進学を前提に生徒募集を行う。	全員四年生大学への進学を前提とした生徒募集活動を展開する。	A	A	学校案内、説明会・見学会資料の効果的な活用とプレゼンテーションによる短い時間でインパクトのあるPRを工夫する。グラフや図表、映像・画像を駆使し、わかりやすく印象に残る企画を盛り込む。とくに中学生を引きつける内容を再吟味する。また、ホームページの充実と更新のスピード化にも重点を置き、幅広くPRを展開していく。
		文武両道を基本とした学校生活を紹介し意欲あふれる生徒の獲得を目指す。	A		
		特別講座、補習体制、図書館夜間開放等の学習環境の充実を訴える。	A		
	グローバル社会、高度情報化社会に対応できる人材を育成するため、基礎学力の定着はもちろん、ICT教育の充実を図るなど、独自の教育プログラムを展開しているといった評価を得る広報活動をする。	生徒一人ひとりの目標達成のための二者面談や日頃の親身な学習支援を紹介する。	A	A	
		不合格ノートなどにより、定期試験成績不振者のきめ細かなサポート体制など面倒みの良さをアピールする。	A		
		習熟度別クラス編成や文系・理系の目標大学別授業内容などを紹介する。	A		
プレゼン能力、論理的思考力を養うために1分間スピーチ、クラスディスカッションに取り組んでいる事を紹介する。	A	A			
授業、アクティブラーニング、探求の時間など、あらゆる場面でICT機器の活用を意識した教育活動が行われていることを紹介する。	B				

アド連絡委員会	東大を中心に難関大合格のための新しい運営方法を検討する。	インターネット環境の充実により、学校でも家でも学習できるe-learningの環境づくりを行う。	A	A	東大受験をはじめとした難関大学合格に向け、生徒のサポート体制を再構築する。 教員に対しての情報交換のみならず、研修その他の質の向上を目指す。
		東大志望者を増やすために見学会等を実施する。	B		
		東大と医学部の入試動向についての教員間の情報交換、情報収集を行う。	B		
		先進校の取り組み事例を視察し、教員の質の向上と学習環境の企画立案を行う。	A		
教育学会校内運営委員会	県内外の卒業生教職員の情報収集及び、勉強会の実施計画を検討する。	卒業生協職員に関する情報を集約する。	A	A	定期総会を開き、各会員の現状を把握し、交流を深める。 勤務地の異なる会員による合同企画を実施する。
		情報交換会の企画、立案及び実施。	B		
		教育会設立後の各会員への情報提供、及び個人情報に細心の注意を払う。	A		
		各会員相互の親睦を深め、それぞれの所属する教育機関で有用な情報の交換を行う。	A		
ICT環境整備委員会		校内無線LANをどのように整備するかを検討する	B	B	校内のICT環境を整備するために、教職員の意見を聞き、使いやすい環境を整える努力しなければならない。
		教職員にPCを配布し、ICTの活用を促進する	A		
		生徒向けのPCを整備する	B		
		ICT環境改善のために導入するソフトウェア・アプリの検討をする	B		
カリキュラム改訂委員会	新学習指導要領への対応を踏まえながら、学校の目指す生徒像を実現するために最適なカリキュラムを検討する。	新学習指導要領の変更点について、教科毎に必要な情報を収集する。	A	B	旧態依然とした考え方や教科の権益にとらわれず、広い視野を持ち、時代の変化・生徒の変化への対応を第一に考えることが肝要である。
		現行のカリキュラムの問題点を洗い出すとともに、他校の事例を広く検討する。	B		
		本校にとって最適なカリキュラムの原案を作成・検討する。	B		

高校1年	「自律」を学年目標に、学習指導、生活指導、進路指導面の指導を充実させる。	授業に対する真剣な取り組み姿勢を身につけさせる。	B	A	職業を見据えた適切な進路情報の提示を行う。 学習時間確保と学習環境整備に関して、保護者と一層の協力関係を築く。 社会に対する貢献の意識を育てる。
		予習・授業・復習の学習サイクルを習慣化させる。	B		
		高校生らしい服装や頭髪指導を含め基本的な生活習慣を身につけさせる。	A		
		規則や時間遵守、ボランティア奨励、安全教育など生活指導を充実させる。	A		
		LHRにおける計画的な進路指導の展開、職業観の育成を図る。	A		
		現役合格を目指した大学入試対策の情報提供や進路説明会の開催を行う。	A		
高校2年	「克己」を学年目標に、自主性や集団での役割、将来の職業観を育てる。	自主的な学習態度の育成と予習・授業・復習の学習サイクルの確立を図る。	A	A	各校務分掌や委員会とより一層の連携を図る。 進路指導におけるより綿密な計画を図る。
		朝自習、特講、学習合宿、図書館夜間利用等への積極的参加を促す。	A		
		高校生らしい服装や頭髪指導を含め基本的な生活習慣を身につけさせる。	A		
		規則や時間遵守、ボランティア奨励、安全教育など生活指導を充実させる。	B		
		LHRにおける計画的な進路指導の展開、職業観の育成を図る。	A		
		二者・三者面談の実施と3年次コース選択のための進路指導の充実を図る。	A		
高校3年	「飛躍」を学年目標に、学習・生活両面において高校生活最後の仕上げを行わせ、進路目標を実現する。	大学入試を見据えた授業を展開し、常に緊張感ある授業を心がける。	A	A	学習環境(図書館や教室)の一層の整備、充実を図る。 出席状況のさらなる改善を図る。
		朝自習、図書館夜間利用などを徹底し、学習時間を最大限確保させる。	A		
		生活のリズムを確立させ、規範意識の確立と時間遵守の徹底を図る。	B		
		高校生らしい服装や頭髪指導を含め基本的な生活習慣を身につけさせる。	A		
		LHRにおける計画的な進路指導の展開、職業観の育成を図る。	B		
		オープンキャンパスへの参加、進路指導室利用や進路相談や模擬面接指導の徹底。	A		